

The Gallery

2006(平成18)年7月16日(日) 発行・相模原市議会をよくなる会

■「議会だより」■

審議結果の会派別賛否公表へ

当会の強い要望に、議会が一步前進

一般質問議員名はいまだ非公開

相模原市議会6月定例会の議会運営委員会(6月30日)は、8月1日発行の「市議会だより」で、市議会史上はじめて議案審議の結果を会派別の形で掲載することになった。当会では「市議会だより」の抜本的改善を求めてきたが、ようやく一步前進となった。本来は、議員一人一人の賛否が分かるのが望ましいが、今後の改善に期待したい。

代表質問制になれば 議員名掲載と決めたが

今回、議員が行う質問については、2種類の形が決まった。一つは「代表質問/個人質疑」と題する市側提案の議案に対する会派代表や個人が行うもの。もう一つは議員個々が市政一般について議案以外に自由に行う「一般質問」。

これまで当会は、全ての質問者の氏名を公表・記載すべきと訴えてきたが、今回議会のはのは、「代表質問/個人質疑」の質問者名をリード・コピーの部分にまとめて記載するという変則的扱いに決めた。

「一般質問」については所属会派名だけで氏名の公表は相変わらず明示しない方針は継続されることになっている。議会制度検討協議会での議論の経過をみると、平成17年5月10日発行の「検討事項について議会運営委員会決定事項」には《議会だよりの編集について・議会だよりのスリム化について》の中で、「一般質問は会派名、氏名を掲載する」としたうえで、「代表質問制への移行を踏まえて対応する」と明記されている。6月議会で代表質問制がスタートしたのに、この決定事項が施行されなかったのは何故なのだろうか？

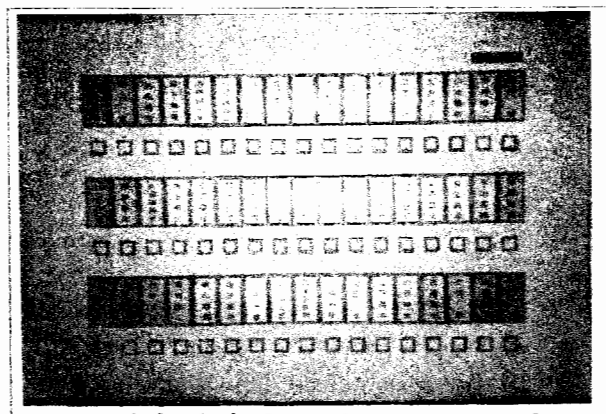
これまで非公式に「無所属や小会派議員にとってはいい宣伝になるが、大会派には不利だ」と言われた噂が生きているのか。

少なくとも中核市の議会運営委員会が決定したことを守らないとは異常な事態だ。

一般質問者は今6月定例会では21人を数えた。48人の議員中、半分以上の議員が質問に立たなかった。質問は公約達成のための有力な手段・権利と考えれば、欠かせないはずだが、質問に立たない議員は何を考えているのだろうか。

【資料】6月議会の会派別一般質問者数

●市政クラブ	6	(所属25人、質問率24%)
●公明党	4	(" 8人、 " 50%)
●日本共産党	3	(" 4人、 " 75%)
●民主クラブ	3	(" 4人、 " 75%)
●無所属クラブ	2	(" 3人、 " 66%)
●社民党	2	(" 2人、 " 100%)
●神奈川ネット	1	(" 2人、 " 50%)
合計	21	(所属48人、質問率43.7%)



来年度本庁ロビーに設置予定の議員在席表示ボード

傍聴報告・6月定例会

■本会議 (感想と意見) (5月18日、6月1、12、13、14、15、30の7日間)

1. 6月12日は、市議会にとって歴史的な日。代表質問(3人会派以上)と個人質疑(2人会派)制度の初日。それぞれ市側提出議案への質問をする。ただし、前者には議案以外にも市政全般の質問が許され、後者(*)には許されないという条件が付く。なにか不平等な制度との思いが消えない。
2. 当日問答に要した各派の時間は:

市政クラブ (佐藤賢司議員)	50分
公明党 (小林一郎議員)	47分
民主クラブ (長友克洋議員)	59分
共産党 (藤井克彦議員)	61分
無所属クラブ (西村綾子議員)	55分
*神奈川ネット (岩本香苗議員)	13分
*社民党 (金子豊貴男議員)	25分

代表質問では全5会派が米軍再編に触れたのに対し、個人質疑では触れられなかったのは提出議案に基地に関するものがなかったからか。なるほどこういう事も起こりうるのか。

3. 従来の「総括質疑」との際立った内容の違いはないという印象だが、会派の大きさの差を明確に認識させる狙いは出ていたようだ。ただ、無所属クラブの誕生は予想外の展開だったろう。

<一般質問>

4. 加藤議員が「いのち」をテーマに質問。少子化社会での安心して産み育てられる環境整備は自治体の責務と指摘、関係医

トピックス — 着るも脱ぐも親分次第? —

6月4日の本会議。居並ぶ市幹部職員は全員真っ白なYシャツにネクタイ姿。その異常さに傍聴席は驚愕。どこかの独裁国家の議場のよう。そして6月30日の本会議。今度は一変、全員が背広着用、一人としてYシャツ姿無し! 誰の指令で、このようなことが起こったのか。「申し合わせ」もここまで徹底したら、幹部職員の上意下達の現状が際立つ恐ろしさだ。

ちなみに、さすがに議員たちはまちなまの服装で、ホッとした。

師が将来3分の1が廃業するとの情報を提供していた。

5. 溝渕議員が居宅介護の悲惨な実態例をあげて行政の実態調査を強く要請した。
6. 金子議員は、水源地域である相模湖町で内容表示のない業務用洗剤を販売していると、実物のボトルを示して懸念、しかも県が補助金まで出していると述べ、行政のだらしなさを指摘していた。水質保全是重要な課題、見直しをキッチリ進めてほしい。
7. 西村議員は、米軍基地の機能強化、恒久化について、国の方針を待つのではなく、市の積極的方針で行動するよう求めた。市は必要な要求を出していくと答弁したが、答弁通り行動してもらいたい。
8. 合併による増員選挙で当選した大神田議員の初質問とあって「歓迎」の意味も含め傍聴に臨んだが、「足の震える思い」とのご本人の前置き通り、ブツブツと細切れで聞きにくかった。緊張の度合いがよく分かった。早口の質問も聞き辛いものだが、ゆっくりならいいというものでもないことがよく分かった。今後のご健闘を祈る。
9. 大神田議員の初質問は34分。聞くものには余りにも長かった。各質問の前段に誰もが知ってる部分を入れなければ、半分以下の質問時間になる内容だった。
10. 東條議員、2問目の追及が上手くなったが、麻溝芝生公園の「一時期のご不便」が5ヶ月も閉鎖するのはおかしい、市民の憩いの場とは別の目的があるのかと質問。市側の答弁は苦しかった。
11. 東條議員、南清掃工場建替工事の入札で談合疑惑の最中、なぜ中止しなかったのかを質しながら、緊急性に疑問を述べた。市は「調査は行っていないが、間違いなく老朽化している」と。議員はさらに「でも維持費は増えてない」と追求すると、「建て替えるので、金を掛けない」との答弁。本当のところは判らないが、ディベートとしては議員の側に軍配があがったと思う。
12. 岩本議員、南清掃工場建替問題で、あらためて市民の意見を聞く考えを質すと、市長は「その考えはない」と確かな回答。2問目も「市民の意見は聞かないとの明快な答弁を頂いた。」と念を押した。その後市長は立ち上がって、「そんな事は言って

ない。私は独裁者じゃない」と興奮して発言した。傍聴者はみなびっくり！言っていたのは確かだったのに。

市側はさらに、5月29日のニュースで「座間市長が相模原市との連携は必要ないと言った」との報道について、座間市長から翌日、あれは本意ではないとの連絡があったと強調した。

13. 菅野議員、国民健康保険制度は全ての市民が救済される社会保障制度であるべきと主張、市が発行している短期保険証（滞納者向け）では十分な治療が出来ないと述べた。調べでは更新時に1期でも滞納していれば短期保健証になるという。改善策を質問したが、市長は現状の説明をただけで、質問に対してはなにも答えていなかった。
14. 関山議員が世界44カ国で行われている「ライフ・スキル教育」が、喫煙、飲酒薬物乱用という思春期の問題に効果を上げていると紹介した。議員の他市・他国の良い例を列挙する手法だが、市への要望というより議員本人が本気で取り組んでやっていく姿勢がないとね…。
15. 小池議員、3月20日からのメールによる不審者情報の質問で、週に5件位発生していることが分かった。ただ、用語について「露出」は公然わいせつ、「声かけ」は未成年略取未遂と言うべきだと提案していた。なるほど…。
また、市の「窓口サバイバル」について、実施した5月は対応が良かったが、通年アンケート実施はどうかとの質問に「確かに1時期だけやるのはどうかと疑問に思っている」との総務部長の答えは意外だった。
16. 松永議員、障害者自立支援法施行によって、ガイドヘルプサービスを受ける場合定率1割負担となったことを質すと、市は、これにより財政負担が2分の1から4分の1に減ったので、それを今後は福祉一般に還元すると答えていた。それにしても障害者の負担増は間違いない。
17. 山岸議員が「目標都市宣言」なるものを提言した。何かと思ったら、相模原市は政令指定都市を目指すということを市が世の中に宣言することだという。大阪府の堺市がそれをやったので、真似をしてもよいということらしい。この議員は合併促進の旗振りをしたが、次は政令市という。議会の改革も出来ないで、一体何をしたいのか。財政その他の施策をど

うするのか聞いてみたい。ただの拡張主義者であってはならないだろう。

18. 菅原議員、市民の便宜を計り、あじさい大学の土曜開催を提言していたが、それなら議会の週末開催なども検討してみたいかがですか。支持されると思いますよ。
19. 大神田議員、2人の地域担当特別顧問について、津久井・相模湖両住民は合併後の将来について不安が交錯しているなか、アドバイスを得られるので、就任をさせた市長に感謝したい、と一般質問の最後に謝辞を述べた。特別顧問設置に批判的な空気を察しての市長への援護射撃とみたが、その仕事はむしろ新たに議席を確保した3議員にやってもらいたいと思う人は大勢いたはずだ。
20. いつも爽やかな質問の中村議員の足を引っ張る応援団が傍聴しにきた。禁止されている「拍手」を前後2回もしてしまった。あいにく居眠りをしていたらしい守衛は気付かなかったとの弁明だったが、議会事務局員は確認、後刻注意したそうだ。おまけに、質問に先立ち中村議員は「後援会の皆さんのため一生懸命質問したい」とつい言ってしまった。野次で気づき「市民の皆さん」と訂正したものの後の祭り。素直さが仇になった。
21. 大沢議員、「こんにちは」で質問開始、明らかに議員仲間に挨拶していた。ほんとの相手は市側ですよ。今回、公立中学校の修学旅行の経費と業者見積り問題を取りあげたのはいい視点だった。今後もよく調査し、学校の主体性の名のもとに格差を放置することのないよう監視してほしい。
22. 沼倉議員、質問テーマは悪くないが、相変わらず第2問目がどうしても組み立てられない。質問なのか、要望なのか、意見なのか区別が付かない。市側は推測をしながら答弁をしたが、質疑(?)がかみ合わなかった。質問でシティーセールスを提言していたが、水源のほか具体策がなかった。もっと研究してほしい。
23. 長友克議員は、廃プラスチック中間処理施設問題で、さらなる情報提供と大気汚染の調査を約束させていた。安全性確保が市の課題であることは間違いない。
24. 友成議員、市民にとって関心の深い副市長制、幹部職員の早すぎる人事異動、合併後の地域振興特別顧問委嘱、市長と市民フォーラムとの協定と議会の関係など、注目される質問を連発。このような議論こそ、大いにやってほしい。 ■

委員会 (感想と意見)

■ 総務委員会 (6月19日)

- 水道料金の値上げから始まって市・県民税の大幅増に対する騒動は、行政の市民からの理解を得る努力の不足をあからさまに示した。市民理解を得るさらなる努力をという藤井委員、長友義委員の要請は当然だ。
- デジタル地域防災無線整備工事、津久井・相模湖それぞれの庁舎の耐震化等、合併に伴う補正予算が審議されたが、合併効果が出るように努力してほしいと要望していた山岸委員の発言は、合併推進派のか細い声に聞こえる。
- 陳情第8号(公共事業建設労働者の適正な労働条件確保の国への意見書提出)はなぜか不採択になったが、建設産業には全国で548万人、県内39万人、本市内には2.9万人と聞いて驚いた。今後の建設需要とのアンバランス、建設不況の再来が心配になった。
- 川上委員長は自然な進行をしていたが、津久井・相模湖両町の新役所名や役職名の呼び方に終始もたもた。しっかり覚えて委員会に臨んでほしかった。
- 緊張しての参加は同情するけれど、2町地域自治区事務所からの説明者の答弁は聞くに耐えないものだった。質問の趣旨を理解するのが困難な様子だった。加山助役以下49人もいた市側出席者の中にスムーズにカバーする人もいなかった!

■ 民生委員会 (6月20日)

- 陳情第6号(医師・看護師等の増員の意見書提出)の審議で、2議員の意見が注目された。
 - 沼倉委員=「陳情は理解できるが、人材確保は困難。国の動向を見て...」
 - 菅原委員=(本市の現状につき説明を受けた後に)「昔から医師・看護師は足りないが国は頑張っている。地方は少ないのは事実だが、こういう状況の中で陳情されてもムチャクチャかな。結論として陳情は認め難い。」
「ムチャクチャ」はないでしょ。言葉遣いには注意しないと品性を疑われることになる。
- 議案80号は大野南地区に20館目のこどもセンター建設について。この中に、

「創作活動室」が出来るが、相武台に次いで2館目。中高生への対応を考慮して、職員にはしっかりした人材を考えていると、こども施設課長が答えていた。そのためには、シッカリした身分保障がなければならぬと思う。

■ 環境経済委員会 (6月21日)

- 傍聴者が70人を超え、委員会室は満杯。市提出議案はたった1つ。あとは陳情が8件の異常な委員会となった。
- 市の議案(18年度補正予算)で、金子委員が「市有森」について“米軍基地と同じ広さ”と同委員らしい表現で取り上げ、管理に力を入れていかないと、と強調していた。
- 補正予算のところでは、観光振興策として津久井町の小原本宿本陣、相模湖花火大会そして相模湖駐車場無料化等で観光資源の掘り起こし、都市型観光地を目指すなどの質疑があった。また津久井町の合併浄化槽普及率30%、整備地区から外れている又野については、環境保全税で整備を県に陳情する質疑もあった。今回の合併で、この委員会の様子が大きく変わった。新市域の環境資源の問題では、大上、寺山、稲垣、金子各委員こぞって効果的・効率的活用を求めている。
- 陳情7件は「廃プラスチック中間処理施設の本格稼働の延期を求める」同趣旨のものが並んだ。陳情7団体が集めた署名は何と9万以上。傍聴者は宮下本町を中心とした住民で、同じ施設の建設がすすむ田名塩田との温度差が感じられた。継続審議を提案した東條副委員長と菅野委員が退席後、陳情は不採択となった。
- 市側は、杉並区の可燃物処理と廃プラ中間処理の比較はおかしいこと、容器リサイクル法・県条例等をクリアーしてること、活性炭通過とシャッター降ろしの徹底等の安全策、全国819ヵ所の問題発生皆無などを列挙、安全性を説明していたが、直径百メートル以内の住民への説明も指針通りに行っている等と、ことの深刻さを訴える市民とのギャップが目立つものだった。
- 東條、菅野両委員は国の環境基準の甘さを指摘、不安解消の施策を求めている。他の委員の質問や意見も聞いているかぎり継続審査が順当と思われたのに、採決の結果は不採択だった。
- 石井委員、「一言陳情に反対したい」と発

言したのには驚いたが、要は市がことを段階的に進めて来たのだから、問題ないということらしい。挙げ句、加山助役の決意と感想を問うていた。そして、不安払拭する十分な説明を注文した。

- 小俣委員、民間委託は流れで、小田原・足柄から本格化している。これがダメなら他に方法が有るのか、ぜひ成功させたい、頑張ると市に声援を送っていた。

■建設委員会（6月22日）

- 議案第85号（18年度補正予算）で、津久井地区の小野沢委員が「予算計上にお礼申し上げる」として、今後とも津久井地区対策には相当な金が掛かるが、道路行政等で合併効果を実現して欲しい、また予算執行が3ヵ月も遅れている現体制（人員）、舗装率が低い（認定率79.7%）などの実情も披瀝していた。

これに対し、市は主要通学道路の歩道整備、市道・国道の接続箇所の改善、狭隘道路の拡幅などの対応を述べていた。

- 岸浪委員の耐震対策質疑で、津久井8ヵ所、相模湖2ヵ所の早期終了を目指すとして市側の答弁があった。
- 田中委員が、合併で町道は市道にしたのかとの問いに、加山助役はそのレベルでの整備を実施すると回答した。
- 議案第86号（18年度下水道特別会計補正、津久井・相模湖関係下水道工事）で、小野沢委員が対策を質したが、家が離れているため、なかなか困難だが検討すると答弁していた。実現難航が予想される事案だ。（参考データ＝下水道普及率津久井31%、相模湖50%）
- 今回の委員会は合併地区の補正予算の検討が主体だが、金のかかることについての議員発言は無かった。また珍しく全委員が発言したが、1回位は発言しておこうという議員はまだ健全なのだろう。
- 2町地区選出議員の我田引水が目立ったが、合併効果の実現を旗印にしている。今後、合併地区への税金投入が予想以上に増大するようだ。安易な駆け込み合併のため、表面のみを見て中身の検討をしなかった行政・議会の今までの運営をチェックする必要を強く感じた。

■文教委員会（6月23日）

- 議案は2つ。一つは大沢公民館の大規模

改修と増築に関し、工事中住所を仮設建物に移し、完成後はもとに戻す改正案。大事なことを議会の承認なく進めることがあるのに、こんな瑣末な変更で議会の承認を得る必要があるのか。当然ながら、変更自体に言及する委員は一人もいなかった！

- 久保田隼委員の改修工事の経緯に関する質問で、工事費が1億7800万円で、特に上限が無いこと、委員の地元、新磯公民館は平成20年の改修計画など聞き出した。そこで、現所在地は駐車場が狭いので他に移転できないかとの質問に、改修は30年経過をメドに、建物は60年持つのでその予定はないとの答え。更なる突っ込みには、「地域の皆さんと相談しながら」とのいつもの答えが用意されていた。
- 合併2町には公民館は2館ずつあるが、津久井のものは昭和31年（1956）築だとか、結構ひどいものと想像する。
- 岩本委員が、大沢公民館の工事中はサークル活動の人は不便だろうと質問すると、近くの消防署の会議室を使うとのこと。普段でも、市の施設は自由に使えるようにしたらいいと思った。
- 小林委員が工事中は一部でも使えないかときくと、仮設を使用させ、全館閉鎖という答えだった。
- 細谷政委員、公民館の利用率を質問、答えは60.5%。予約取りにくい割には低い。市は、茶室ど利用されにくいものがあるとの答弁。
- 二つ目の議案・平 18年度の補正予算に西村委員が、併した2町の学校の焼却炉の撤去費用で問、小学校6基430万円中学校6基で30万円、幼稚園56万円と分かる。委は「負の遺産」と指摘し合併前に知り処理すべきだったと発言。今後もこうした補正予算がでる可能性もあるとの市の答弁もあったが、藤野町・城山町の実態調査が必要ではないか。
- 久保田隼委員の質問で、さがみ風っ子展に合併2町から千人の小学生を招き野外体験教室の交流に補正予算が組まれていることが分かった。
- 川田委員の質問で、市は町にある公立幼稚園を今後、国の方針に従って幼保一元化で民営化する方向を示した。
- 岩本委員、公共施設の下水道整備と相模湖のボートレース大会に質問したが、しどろもどろの感じだった。知らなくても毅然として、市民代表としての質問はOKだと思いますよ。

- 小林委員、津久井・相模湖の答弁陣に向かって、「訊きたいことは沢山あるけどどこまで訊いていいのか遠慮がある。議員に訊いたほうが早いのかな」とおかしな発言。
- 副委員長を務めた大神田委員は、委員会の終わりに、津久井から来た代表として耐震工事、学校施設の維持・保全を地域ぐるみでやれるよう強く要望していた。まだお客さんという感じが出ていた。
- 委員会を傍聴していると、実に不思議な気持ちになる。委員（議員）全体の態度が要望ばかり。つまり行政の中身（何が行われようとしているのか）を知らないらしい。だから「お願い、お願い」となってしまうのか。市側の答弁を聞き終わった後、いちいち「ありがとうございました」という委員がいるが、市民の代表がそんな卑屈とも思える態度を市職員に対して取ってもらいたくない。お互い、仕事だと割り切り、実のある質疑に終始する委員会を望む。

■ 議会運営委員会(6月12、15、30日)

- 6月12日の案件は米軍再編についての「意見書」提出について。意見書の原案が傍聴者に渡されていないので、以下のやり取りがあったものの何がなにやら分からなかった。(録音が許されないので正確な記録になっていない可能性あり)

 - ・松永委員=再編のところを除いた。3項目にしたい。
 - ・石井委員長=それがポイントなので、無いとこれ自体意味がない。
 - ・稲垣委員=小田急、キャンプ座間周辺の道路整備の財政支援を。
 - ・米山委員=聞き取り不能。
 - ・西村委員=特措法なら賛成できない。項目6は外したい。

- (注) 要は前文と要求項目の文言作りの事らしいが、資料として傍聴者にも見せても支障があるとは思えない。その後、6月15日の議会運営委員会で意見書を完成した。
- 6月30日の委員会では、電子採決システムの導入が話し合われたが、費用が1千万円程度ということがわかった。公明党委員は「市民サービスになる」共産党委員は「誰が賛成したか反対したかわか

らなくなる」無所属と民主クラブは「会派に持ち帰り検討したい」と発言した。

- 「議会だより」第154号の発行については次の事項が決まった。
 - ・発行日を8月1日とし、市の「広報さがみはら」と同時配達すること。
 - ・審議結果の会派別賛否を公表する。(本紙第1ページに詳細)
- この日示された議会の平成19年度事業計画に、本庁舎ロビー内に、市議会議員の登壇掲示板(電光ボード)を設置する案が示されていた。これは本会が以前から議会事務局に提言してきたもので、歓迎する。市の市長、3役などの幹部職員については既に掲出されている。
- 西村新委員が、議会制度検討のなかで未だ積み残しになっている項目についての各派の感想を聞きたいと委員長に要請、了承されていた。 ■



傍聴記

大和市議会

6月16日、4年ぶりに6月の定例会の一般質問を傍聴した。当時30人だった議員は28人に削減され、正・副議長はともに最大会派の無所属クラブ(8名)が占めていた。

議場で目立ったのは、以前は無かった国旗・日の丸が市旗とともに議長席をはさんで立てられていたことだ。議場内の守衛は今もいない。

開議前、上屋市長は傍聴席の知人に手を振って挨拶したり、議員も傍聴者と軽口を交わすなど、何とも和やかな雰囲気であった。

質問での違いでは、第1問に限らず全て登壇して行う。自席ごとのマイクは置いていないのだ。登・降壇の際の会派仲間の拍手は皆無。議員への答弁は、通告質問の大項目ごとに、その都度市長により行われた。傍聴者に配られる「一般質問通告一覧」には、質問者の持ち時間が明示されていて、分かりやすい。

市議2期、市長3期目の実力市長の独擅場で、議員とのバランスが気になる沈滞ムードが印象に残った。後日マスコミに「徒労感だけが残った」と語った市長の感想が分かる気がした。(赤)

陳情採択率 6% — 問題は何か？

— 過去11議会の陳情実績を拾う —
(市議会から)

議 会	上程件数	採択数
平16年3月定例会	17	2
“ 6月 “	6	1
“ 9月 “	6	0
“ 12月 “	9	1
平17年2月臨時会	11	0
“ 3月定例会	30	1
“ 6月 “	48	2
“ 9月 “	2	0
“ 12月 “	3	1
平18年3月定例会	5	1
“ 6月 “	11	0
合 計	148	9 (6%)

〔参考〕 同期間、請願（紹介議員の署名が必要）は全部で7件あり、採択件数は3件あった。（採択率42.8%）

閉ざされる陳情者の 補足説明

審議を付託された常任委員会では、委員が行政側に、陳情事項についての背景や事実関係の補足説明を求めている。しかし、陳情者に意見や説明を求めることはないのが現状。制度の上では、委員長から市議会議長に申請すれば、参考人として陳情者を呼ぶことができる。場合によっては公聴会さえ開く道がある。議会は市民の声を聞く一層の努力が必要である。

陳 情 者 の 声

廃プラ中間処理施設の陳情に思う

村田真人（小山）

私たちは、7団体で9万筆を超える署名を集め、廃プラ中間処理施設の本格稼働の延期を求めました。環境経済常任委員会の傍聴では、発言は許されず、議員へ説明する機会を封じられています。議員は陳情当事者の意見を聞く機会がありません。

今回の陳情で特に歯がゆかったのは、いわゆる「杉並病」の原因物質を特定する東大の崎山論文が、市の誤った説明で誹謗中傷されたにもかかわらず、その場で誰もこれを止められなかったことです。行政の誤りや不足を指摘するのが陳情であり、議員は耳をそばだてて9万筆の声を聞く必要がある。

議会と市民を結ぶ絆 大林トヨ子（大山町）

今まで議会に出した陳情は数えきれないほどだ。橋本公民館移転問題、女性センター（男女共同参画推進センター）建設、橋本駅北口再開発などのまちづくりに関して、また住基ネットへの不参加、教育基本法改正、米軍再編問題などで意見書を国会へという陳情もした。しかしことごとく「不採択」だった。委員会では議論らしい議論もなく、文章がまずいなど陳情者の思いや願いは顧みられない。私は議員は市民の代弁者だと認識しているが、大多数の議員は責任をもって議論しようと思わない。市民の問題はもっと議論すべきだと思うが、これでは行政の代弁者かと思ふほどだ。

民主主義を柱とした議会であれば、陳情を軽んじてはならない。このままでは議会と市民を結ぶ絆が痩せ細り、議会制民主主義の終焉になりかねないと危惧し続けている。

議員はもっと勉強して

広木 稔（橋本）

市民からの陳情書はいくら提出しても、いつも不採択になる。議員は内容をしっかり把握し、住民のための街づくりを真剣に取り組んで審議しているのだろうか。未だに理解出来ないことがある。市議会の建設常任委員会や建設審査会の傍聴に行ったときも人数を制限され、何の発言も許されず、あとで結果を聞くだけの参加だった。重要な話は非公開である。もっと市民が納得できる議会であってほしい。

いつも思う。選挙に立候補するときは、住みよいまちづくりや住みよい暮らしの実現を市民の代表として頑張ると言いながら、いざ当選すると、市民のためでなく、私欲のために頑張る人が多い。議員はもっと法律の勉強をして住民のために頑張ってもらいたい。

新3市議アンケート

今年3月の合併後、4月23日の増員選挙で新たに議員に当選した3氏に対し、本会は緊急アンケートを実施した。3氏とも最大会派「市政クラブ」に所属した。(敬称略)

大神田 日本
(おしかた やまと, 67才, 相模湖町選出)



■出馬の動機
相模湖の将来を考え行動した。自治区の皆様と共に考え、地域の発展に寄与するため、皆様の代弁者となる決意。小さな声でも市政のため全力を尽くす。

■政治信条
皆が安心して暮らせるまち、自然環境を活かした福祉の充実、快適な生活環境、子育て支援の充実と活力ある観光産業づくりを推進していくこと。

■市政クラブ 所属の理由
保守系であること。政策的な一致点がある。同志であること。

■市議会の初印象
市と町の行政・議会のあり方の違いで、連日緊張の連続であった。地域を背負う代表だと思い、責任の重さを痛感した。

小野沢 耕一
(おのざわ こういち, 61才, 津久井町選出)



■出馬の動機
合併を強力に推進した者として、新市政のもとでの行政サービスの円滑化と住民生活の更なる安定と向上、豊富な自然資源活用と地域の活性化を進める。

■政治信条
郷土愛と行動力。

■市政クラブ 所属の理由
私と市政クラブの政策が同じであり、同会派に先輩が所属されている。

■市議会の初印象
議会運営の違い、基地問題が市民生活やまちづくりの課題であることを認識すると同時に新市のまちづくりに向けた市政の取り組みに期待を感じました。

宮下 奉機
(みやした まさき, 63才, 津久井町選出)



■出馬の動機
市町合併に直面し、旧町において2年半合併問題特別委員長の座にあり、新市において諸課題解決のための活動の場が必要。

■政治信条
“解決すべき諸課題は住民の間にあり” 「行って見て、聞いて確認」し、住民の声を行政に反映する。

■市政クラブ 所属の理由
同僚議員が居ること。また合併後の新市において旧町の問題等について真摯に取り組んでもらえそうな点から。

■市議会の初印象
会派中心の議会運営であること。

—ミニトーク—

議会の拍手

普通の解釈では、拍手は賛同や称賛の表現だが、議会の傍聴で見ると、質問者が登・降壇したり、委員長報告時に自

—mini talk—

分の会派の議員に送るだけ。発言の中身に賛同する拍手は皆無。拍手に値する議論が無いからか。傍聴者の拍手禁止は表現の自由を保障する憲法第21条に違反では？

「議員の通信簿」の評価基準を策定

— 来春の市議選めざし他市とも協議 —

本会では、2003年に初の「議員の通信簿」を作成し、多くの市民の支持・共感を得て、本会の存在を大いにアピールした。また、その後、この「通信簿」を取り入れた他市・町も現れ、その反響は予想以上だった。

来春の統一地方選挙を控えて、次の「通信簿」を作成する段階に入ってきたが、他市の傍聴団体から共通の評価基準を作成しないかという申し出があり、その協議に入るようになった。公務員にも生産性や勤務態度の評価がなされるようになった今日では、議員に対しても、評価制度が適用されるのは当然と考えられるが、いまだ公的には何も無い。

共通の評価基準が適用されれば、様々な市町村の議員のレベルおよび議会のレベルが客観的に数値化され、ランキングが可能となる。今のところ、本会の相模原基準を原案に話が進んでいるが、内容については、できるだけ客観的に評価できるように慎重に協議を進めていく。

なお、今回の「通信簿」については、議員自身からも、評価基準に盛り込むべき項目を募ることを計画している。

2007年度版の「48議員の通信簿」は市議選直前の2月に発行予定。

The Gallery (傍聴版)

臨時特集号

あなたの選んだ
46議員の「通信簿」
いっしょ公開！

★

公約はどうした？
説明・説得力は？
改革姿勢は？
意欲・態度は？
知識・調査力は？

♡

中核市を誰に任せますか？
選ぶのはあなたです！

前回（平成13年）発行の
「通信簿」表紙

本間元市議が通信簿批判

2003年2月に本会が発行した相模原市議会議員の『通信簿』について、元相模原市議会議員の本間俊三氏が、「タウンニュース」5月11日号に左掲のような自身のPRコラムの「提言」の中で、“あるグループの取り組み”として紹介しながら批判を行っていた。

このなかで、本間氏は「評価の基準は知らされてない」と述べているが、同通信簿には詳しい評価基準がきちんと記述されている。また、評価に当たった9人の会員の実名と各自のコメントが明らかにされている点を見逃している。

氏はさらに、評価が「野党側に甘く、与党側に厳しい」とも述べているが、その正当性は、市民の皆さんが本会議や常任委員会の審議をすべて長期間にわたって傍聴して検証していただくしかないのである。本会では更なる公平さを追求して、通信簿作成に務める考えである。

提言 ～通信36～

議員の通信簿

触らぬ神にたたりなし

元相模原市議会議員 本間俊三

ピカピカの1年生が真新しい通信簿と社会の評価を、校の通信簿は紙でほろほろと、上級生に前後を守るともいえないが、評価するものとしてあるものが登場する点では共通している。

あるグループの取り組み

各学校からの評価、通信簿の基礎は知らされてなく、

企業が社外には評価され、グループは議員に打つ手なし

企業の社外には評価され、グループは議員に打つ手なし

グループは議員に打つ手なし

本間俊三プロフィール

本間俊三公式ホームページ
http://www.do.hi700.jp

無所属クラブ誕生

— 6月定例会から議運委に参加 —

これまで無所属として議員活動を続けてきた3人の議員が新たに「無所属クラブ」を結成した。3人会派として議会運営委員会への構成要件を満たしたことで、代表の西村綾子議員が委員になり、議会の運営に参画する。同会派の所属議員は、他に長友義樹と東條恵美子の2氏。

これにより、市議会の会派数は7となり無所属議員はいなくなった。

本庁ロビー内に 議員の出欠掲示板

本会が以前から要望していた市議会議員の登庁を示す電光掲示板を設置する事が、19年度の事業計画に含まれ近く実現される。現在は市長や幹部職員の在席が表示される電光ボードが設置されているが、議員のものはなく、2階の議会事務局に尋ねるほかない。(表紙ページに写真)

この計画が実施されれば、市民にとって市議会がより身近になるとともに議会事務局員も問い合わせから開放される。

☆

また、相模原市議会の所在を示す「相模原市議会」の表示は、庁舎内のどこを探しても見当たらない。「議長室・副議長室」の表札はあるのに肝心の議会の表札がないのはおかしい。早速つけてほしい。

市長が着席で答弁

— 病を押して議会対応 —

3月議会では市長答弁を加山助役に代役させていた小川勇夫市長が、6月定例会では自席に着席しながらも、第一問目への答弁を全部行った。そして、体調不良にも関わらず気力は十分で、ここぞという質問には自ら発言を求め身振り手振りの答弁、はては“野次”までとばし、議場内の驚きを誘っていた。

特に合併問題にからむ、津久井と相模湖両元町の特別顧問の就任については、「あくまでも合併を成功させるための欠かせない人事である」と強弁していたことが印象的であった。

この特別顧問採用に関して、田所直久広域行政担当部長は、来年3月に合併予定の城山町と藤野町についても就任依頼するという市の意向をのべ、その場合は必ずしも現町長であることにはこだわらないと述べたと報道されている。

編集後記

- ◆合併による津久井区と相模湖区の増員選挙で市議になった3議員が仕事を開始した。たった3行で「議会だより」に記載されただけなので、アンケートで人物紹介をさせてもらった。
- ◆議会の中が変わってきた。代表質問制の採用、無所属クラブの誕生、市議会だよりの改善も少しずつ進んだ。
- ◆行政側の目まぐるしい人事異動も一段落、真剣な議論を期待する。(赤)

9月定例会日程(予定)

(毎日9時半開始)

8月23日(水) 本会議(提案説明)	9月13日(水) 総務委員会
9月5日(火) 本会議(代表質問・個人質疑)	9月14日(木) 民生委員会
9月6日(水) 本会議(代表質問・個人質疑)	9月19日(火) 環境経済委員会
9月7日(木) 本会議(一般質問)	9月20日(水) 建設委員会
9月8日(金) 本会議(一般質問)	9月21日(木) 文教委員会
9月11日(月) 本会議(一般質問)	9月29日(金) 本会議(委員長報告) 議運委

□入会申込書□

<入会金不要>

私は会の趣旨に賛同し入会します。(A, B どちらか ○をつけてください)

氏名 _____

A. 会員(傍聴など活動する)として

住所 _____

B. 賛助会員(講読、支援等)として

☎・FAX _____

●年会費(会員2000円、賛助会員1口1000円から)

★郵便振込番号:00280-6-48430 相模原市議会をくする会

★申込み先= 相模原市議会をよくする会・事務局(代表/ 赤倉昭男)

〒228-0814 相模原市南台5-13-8 ☎/FAX 042-749-9140

HP = <http://yokusurukai-gallery.hp.infoseek.co.jp/>